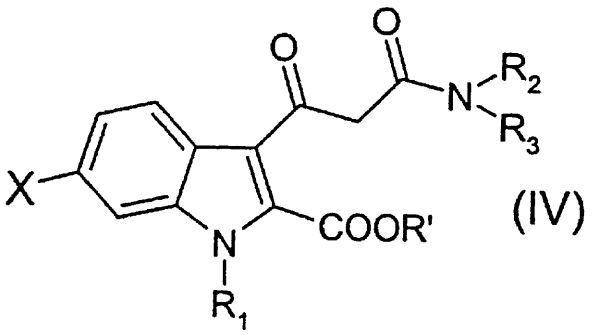
【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成18年5月25日(2006.5.25)

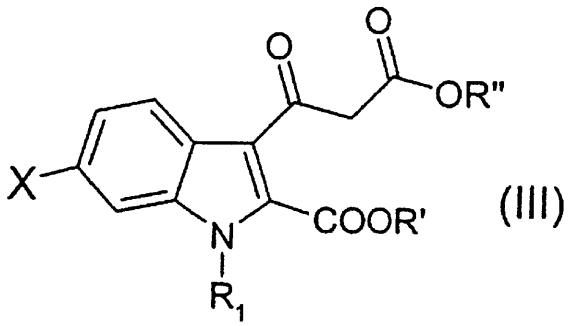
【公表番号】特表2005-527566(P2005-527566A)
【公表日】平成17年9月15日(2005.9.15)
【年通号数】公開・登録公報2005-036
【出願番号】特願2003-580339(P2003-580339)
【国際特許分類】
*Ｃ０７Ｄ 487/04 (2006.01)*
*Ａ６１Ｋ 31/5025 (2006.01)*
*Ａ６１Ｐ 3/10 (2006.01)*
*Ａ６１Ｐ 9/00 (2006.01)*
*Ａ６１Ｐ 9/04 (2006.01)*
*Ａ６１Ｐ 9/08 (2006.01)*
*Ａ６１Ｐ 9/10 (2006.01)*
*Ａ６１Ｐ 13/12 (2006.01)*
*Ａ６１Ｐ 17/00 (2006.01)*
*Ａ６１Ｐ 17/04 (2006.01)*
*Ａ６１Ｐ 17/06 (2006.01)*
*Ａ６１Ｐ 29/00 (2006.01)*
*Ａ６１Ｐ 35/00 (2006.01)*
*Ａ６１Ｐ 37/02 (2006.01)*
【ＦＩ】
Ｃ０７Ｄ 487/04 １４０
Ｃ０７Ｄ 487/04 ＣＳＰ
Ａ６１Ｋ 31/5025
Ａ６１Ｐ 3/10
Ａ６１Ｐ 9/00
Ａ６１Ｐ 9/04
Ａ６１Ｐ 9/08
Ａ６１Ｐ 9/10
Ａ６１Ｐ 13/12
Ａ６１Ｐ 17/00
Ａ６１Ｐ 17/04
Ａ６１Ｐ 17/06
Ａ６１Ｐ 29/00
Ａ６１Ｐ 35/00
Ａ６１Ｐ 37/02

【手続補正書】
【提出日】平成18年3月29日(2006.3.29)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】請求項８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【請求項８】
一般式（IV）

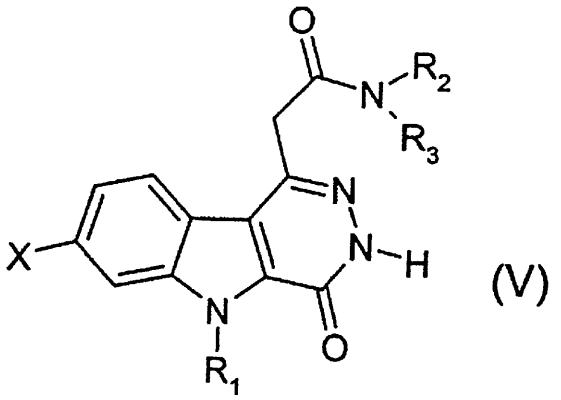
【化４】



（式中、Ｘ、Ｒ$_1$、Ｒ$_2$、Ｒ$_3$およびＲ′は請求項７で定義されたとおりである）
の化合物が、一般式（III）
【化５】

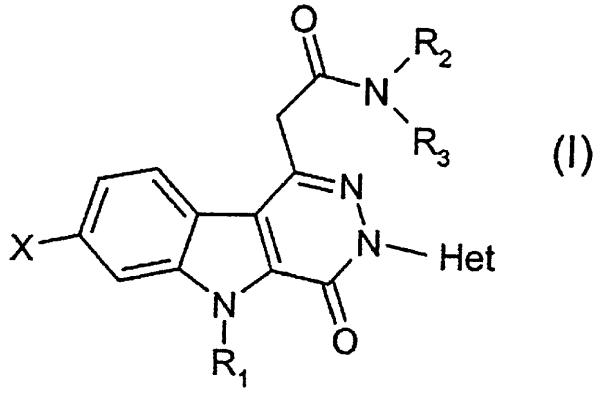


（式中、Ｘ、Ｒ$_1$およびＲ′は上記で定義されたとおりであり、Ｒ′′は（Ｃ$_1$－Ｃ$_4$）アルキル基を表す）
の化合物を、一般式ＨＮＲ$_2$Ｒ$_3$（式中、Ｒ$_2$およびＲ$_3$は上記で定義されたとおりである）のアミンと、触媒の存在下に、反応させることによって製造されることを特徴とする、請求項７による方法。
【手続補正２】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】請求項９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【請求項９】
一般式（Ｖ）
【化６】

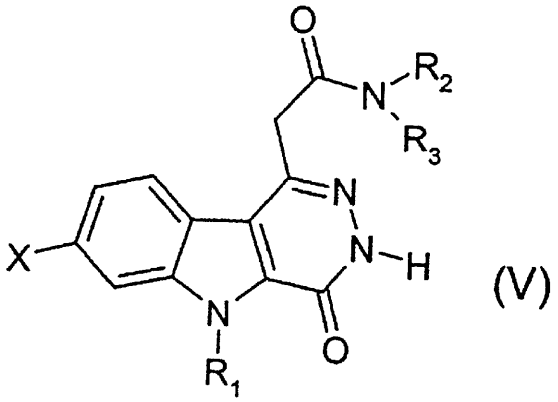


（式中、Ｘ、Ｒ$_1$、Ｒ$_2$およびＲ$_3$は以下に定義されたとおりである）
の化合物に、ヘテロアリールハライド、またはその他のヘテロアリールボロン酸誘導体および金属塩の存在下に、Ｎ－ヘテロアリール化反応を行うことからなる工程を含む、一般

式（Ｉ）
【化７】

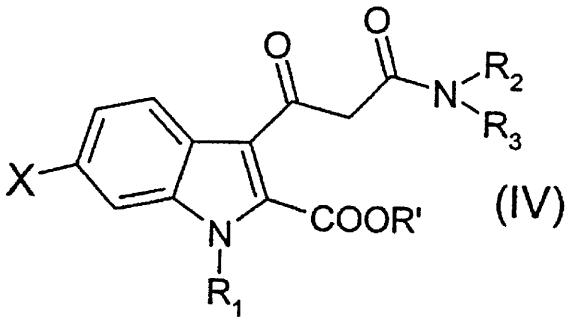


（式中、Ｘは水素またはハロゲン原子を表し、
$R_1$は水素原子または（$C_1$－$C_4$）アルキル基を表し、
$R_2$および$R_3$は、それぞれ互いに独立して、水素原子もしくは（$C_1$－$C_4$）アルキル基を表すか、または$R_2$および$R_3$はそれらを支持する窒素原子と共に、ピロリジニル、ピペリジニル、モルホリニルもしくは４－（$C_1$－$C_4$）－アルキルピペラジニル基を形成し、そして
Ｈｅｔは１以上のハロゲン原子および／または１以上の（$C_1$－$C_4$）アルキルおよび／または（$C_1$－$C_4$）アルコキシ基を有していてもよいピリジニル、キノリニル、イソキノリニル、ピリミジニル、ピラジニルまたはピリダジニルタイプのヘテロ芳香族基を表す）
の化合物の製造方法。
【手続補正３】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】請求項１０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【請求項１０】
一般式（Ｖ）
【化８】



（式中、Ｘ、$R_1$、$R_2$および$R_3$は請求項９で定義されたとおりである）
の化合物が、一般式（IV）

【化９】



（式中、Ｘ、$R_1$、$R_2$および$R_3$は上記で定義されたとおりであり、
Ｒ′は（$C_1$－$C_4$）アルキル基を表す）
の化合物を、溶媒中、触媒量の酸の存在下に加熱することにより、ヒドラジンと反応させて製造されることを特徴とする、請求項９による方法。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００２】
ＷＯ－Ａ－９９０６４０６号およびＷＯ－Ａ－００４４３８４号に記載されている、３，５－ジヒドロピリダジノ［４，５－ｂ］インドール誘導体化合物はすでに知られており、これらの化合物は末梢のベンゾジアゼピン受容体（ＰＢＲまたはｐサイト）に対してインビトロ親和性を有する。優れたインビボ作用を示す物質を見出し、開発する必要性がまだ存在している。